Waseda Vision 150　芸術学校の将来構想の進捗状況報告

１．２０１４年度報告

（１）ハイブリッド・デザインコース（H.D.コース）計画の推進

①建築芸術論研究室の開設

芸術学校と大学院修士課程とを連結した一貫教育体制により一級建築士受験資格と学位（修士（工学））の両方を段階的に取得することを目的とする「ハイブリッド・デザインコース（H.D.コース）」の実現にあたり、その基盤となる芸術学校専任教員による建築芸術論研究室が 2015 年度より大学院創造理工学研究科修士課程建築学専攻に開設されることが決定し、大きな一歩を踏み出すこととなった。

なお、2015 年度には同研究室が従来から卒業論文の指導を引き受けてきた学部４年生（M0：2014 年度３名）を第１期修士課程１年生として迎え入れ、また、2016 年度に入学を希望する芸術学校卒業予定者（社会人出身者）が加わることにより、同研究室のさらなる活性化が期待される。

②特別推薦入学制度の導入

H.D.コース実現のもうひとつの柱となる芸術学校から大学院創造理工学研究科修士課程建築学専攻への推薦入学制度については、現行の特別選考制度の推薦者枠を若干拡充することで対応可能と判断し、当初計画した新たな特別推薦入学制度は導入しないこととした。

（２）創造理工学部建築学科との授業連携実施について

芸術学校と創造理工学部建築学科との授業連携について双方により引き続き検討を進めた結果、学習機会拡大と相互交流および教育活動の活性化を目的とした特別聴講制度に関する箇所間協定が締結され、2015 年度より同制度に基づく科目の相互履修および学生交流が開始されることとなった。

なお、2015 年度については、芸術学校が設置するデザイン理論に関する２科目、および創造理工学部建築学科が設置する主として製図及びデザイン系計画理論の授業以外の工学技術系の講義科目４科目が聴講可能科目としてそれぞれ提供され、両者による相互交流が開始された。

（３）若手建築家の招聘による教育力の強化について

近年の入学者の高学歴化と高年齢化に伴う学習意欲の向上に鑑み、現在活躍する有力な若手建築家（３０代）を非常勤講師として招聘することで、タイムリーにニーズを捉えた教育内容の刷新を図る一方で、そのうち１名を 2015 年度より専任教員として嘱任することが決定し、高齢化が進む当校専任教員の若返りに着手することができた。

２．２０１５年度計画

（１）新教育体制の検討

①新カリキュラム

教育内容を工学技術より芸術表現により比重をシフトさせた新たなカリキュラムについて、その枠組みと内容を箇所内で検討し、新カリキュラムの具体案について策定を進める。

②大学院進学予備プログラム（仮称）

芸術学校と大学院修士課程との一貫教育体制充実のため、2015 年度より大学院創造理工学研究科に開設された建築芸術論研究室への進学をより一層促進、支援する「大学院進学予備プログラム（仮称）」の内容について箇所内で検討を進め、プログラムの具体案について策定を進める。

③他学術院との教育連携

新カリキュラムの策定に加え、他学術院との教育連携を模索する。2015 年度より創造理工学部建築学科とは特別聴講制度に基づく科目の相互履修を開始したが、それ以外に建築やデザイン、芸術表現に関連する科目を設置する学部等との連携を視野に入れ、その連携対象や範囲、連携内容等について箇所内で検討し、当該学術院への提案内容の策定を進める。

（２）新教育体制実現のための教員人事計画検討・立案

①教員人事計画の検討

前記（１）に掲げるカリキュラム改革および大学院進学予備プログラム（仮称）新設等を実現するための教員体制の充実に向けて、定年退職や任期満了に伴う後任人事および教員増も含めた人事計画を教務部等とも相談をしながら策定を進める。

また、計画が了承され次第、具体的な人選を開始する。

②若手教員による教育内容の刷新

定年退職教員の後任として 2015 年度に新規嘱任した若手教員が担当するカリキュラムや教育プログラムの見直しにより教育内容を刷新し、さらなる活性化を図る。

また、前年度に引き続き、定期的な交代人事により若手有力非常勤教員を招聘し、マンネリ化を回避するとともに教育内容の刷新を図る。

（３）広報体制の見直し

芸術学校の教育内容や新たな取り組みをより広く社会へとアピールするための広報計画を検討する。

以上